

「パウロの遺言 教会生活」

～色が見えるようになりますように～

ローマ 16:16~20

目の障害から色の見分けがつかない人がいます。その色覚障害者を助けるために、色覚を矯正する眼鏡が造られています。色覚障害の方がこの眼鏡をかけると、今まで見えなかったカラフルな色が見えて、感動されます。色の見分けが出来る私たちにとっては当たり前のように思える景色が、彼らにとっては感動的な世界として映ります。私たちの見ている世界はこんなにも素晴らしく創られています。私たちはそれが理解できているのでしょうか。私たちの目に映っているもので、見えていないものがあるのではないのでしょうか。私たちの人生で、今みているものは何でしょう。誰かが病気になって落ち込んでいるのを見て、どのように伝えるのでしょうか。多くの場合、同情心を持って語りかけ、対応するのではないのでしょうか。しかし、同情することはその人にとってプラスになるとは限りません。それは、自分が受けた過去の記憶に基づいて同情する事が多いからです。しかも、それはマイナスの記憶である場合が多いです。マイナスの感情によって得られた記憶です。同情する事は、一般的に美しい事とされています。しかし、自分が過去に体験した痛みと目の前の人の痛みを比べてわかろうとしているので、相手の味わっている状態を知る事はありません。そのため、同情された側のプラスになるとは限らないのです。さらに、感情によって記憶された過去の出来事から同情する事は、理性的な対応をしようとしている時でも感情がそれを上回ってしまい、間違った対応をして人生の決断を誤ってしまうことにつながります。だから、同情という行為をやめなければいけません。

■ 善にはさとく悪にはうとく

私たちの従順はすべての人に知られているのでしょうか？従順とは自らの感情に影響されることなく、自分がすべき事が出来ることです。では、だれに従順なのでしょう？多くの場合、目上の人に従っているというイメージを持っていると思います。しかし、パウロが言っている従順は、当時ローマで迫害されているクリスチャン達が、その迫害の中で神の言葉に対する思いと現実のギャップを感じている中で、それでも神の事を思い、従っていこうとしている姿のことを言っています。私たちは当時のローマのような迫害の中に生きてはいません。むしろ、豊かすぎて自ら積極的に何かを求めようとはしていないかもしれません。現実とのギャップに対して戦おうともしていないかもしれません。みなさんはどうですか？そして私たちはどう考え行けば良いのでしょうか？

■ あなたがたの足で

私たちは過去に受けた感情的な記憶によって当たり前のことを間違っただけで受け取ってしまいます。この現実と自分が受け止める感情とのズレは、自分の足で踏み砕くことが出来ます。「平和の神は、すみやかに、あなた方の足でサタンを踏み砕いてくださいます。」ローマ 16章 20節にあるとおりです。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」創世記 3章 15節 創世記で語られているように、蛇の頭はキリストによって踏み砕かれました。神様は私たちの足でサタンの策略を踏み砕くことが出来る事を示してくださいました。様々な悪しきものを踏み砕いて進んで行く事ができるのです。

■ つまずきと分裂 なめらかな言葉 へつらい

私たちは学んだことに対して忠実でなければいけません。自分の良心と自分の思いが戦うのは、学んだことと自分の思いが違ふからです。そして、相手を理解しないままで対応してしまう所にへつらいが生じます。へつらいとは、理解しようとせずに力に屈しようとする心です。それは影響を受けている状態です。納得と理解は違います。ペテロはイエス様が十字架の道を行かれることを証された時、イエス様をいさめようとしていました。この行為に対してイエス様は「下がれサタン。

あなたは神のことを思わないで人のことを思っている。」(マタイ 16章 22節、マルコ 8章 32節)と厳しく叱りました。人にへつらうと、自分が任されている以外の領域に踏み込んで、してはならないことを人にさせてしまいます。神のことを思っていないければ、こうしたつまずきを取り除く事は出来ません。人のことを思うのは同情です。へつらいは人に悪影響を与えます。それは人に気を遣うことから生じます。へつらい人がいると解決しません。へつらいは「標準」(みんな言ってる、みんなやっている…)という自己防衛へと導きます。自己防衛(自分は悪くない)はアダムとイヴの原罪です。アダムとイヴを誘惑したのは蛇です。つまり「へつらい」は「蛇」(悪魔)です。ですから、かかとで踏み砕かなければなりません。だからこそ自分の良心に従ってアンダースタンドに立って向き合かなければなりません。「へつらい」を踏み砕き自分の感情ではなく良心に従う必要があります。

今までの人生で上手くいかなかったのは、それが自分の正義でありへつらいだったからです。聖書は剣で人を傷つける方法ではなく愛せと書いています。私たちの中には愛はありません。だから神様が必要なのです。そして聖書の価値観は私たちがしっかりと向き合えば共通の価値観をもたらすことができます。クリスチャンがしなければならぬのは、分裂している人と人の間に入ることです。その間に入って、キリストの愛で生きる事です。

まとめ

自分の目的をもう一度見つめてみましょう。目的をわかっているフリをしていないのでしょうか？目的がわからないうとすべてがズレます。

あなたはなぜ、今ここにいるのでしょうか。あなたはなぜ、あなたの家に生まれ、今日まで成長したのでしょうか。一つずつ丁寧に受け取って行きましょう。

中国で 11 歳の少年が遊園場で入院しました。彼は亡くなる 1 日前に自分の臓器を提供することを申し出ます。少年は医者になりたいと思っていました。しかし、自分がもう助からないとわかった時、自分の目的は人を助けることだと理解し、そのために出来る事を選択しました。彼は自分の目的は医者になることではなく人助けることだと気づいたのです。11 歳の少年はいのちをもって自分の目的のために正しい決断が出来ました。今日、幸せで何不自由なくこの地で生きている私たちに正しい決断が出来ないなら、何のために生きているのでしょうか。考えさせられます。

キリストがいのちをかけて、私たちの内に来てくださったのは何のためでしょうか。神の子が最も低い立場をとって生き、自分を憎んでいる人々を愛するために十字架に架かって死んでくださり、愛を顕してくださった事を忘れてはいけません。キリストは隔ての壁を打ち壊し、嘲る者の道に立たず、自分の心にある目的を果たすために一番下になって生きました。だから私たちは自分に死ぬことが出来ます。私にはもう何も出来ないと感じる時こそ、キリストはそこに新しいいのちを与えてくださいます。神様が望まれるのは、なりふり構わず人の心を傷つけているあなたの本質を造り変えることです。サタンの策略を自らの足で踏みつけて、私たちの古い生き方を取り去っていただき、へつらいを捨てましょう！従順を選択するべく戦いましょう！それは私たちが神様が本来与えて下さっている本質に戻ることであり、その決断は本来の目的へと私たちを導きます。目的をもった私たちに神様は今まで見たこともないような色づいた世界を用意して下さいます！あなたの目がはっきりと色づいた世界をみれるようになりますように！

(要約者:日名 洋)

(2020年2月2日)